

永 生 病 院 だ よ り

ゆるめあそ

2012
vol. 27

- ▶ 理事長のあいさつ
- ▶ 今年、2月より当院の検査科にて
“グラム染色検査”を導入しました
- ▶ 「魅力ある医療現場に向けた研修会」
にて事例発表
- ▶ 健康ひろば「腎臓の働きについて」
- ▶ 第6回まんのう健康・福祉まつり
- ▶ 平成23年度ひまわり託児所修了式
- ▶ 新採用者オリエンテーション
- ▶ 編集後記



病院理念

- 信頼される医療・保健・福祉を提供し、地域の健康増進に貢献する

基本方針

- 良質な医療を提供するため、心と技術を磨く努力を惜しみません
- 患者の権利、尊厳、安全を重視した医療を提供いたします
- 医療、福祉と連携を持ち、急性期医療から在宅医療まで、
全員参加で取り組みます



KEIRYOKAI

● 理事長のあいさつ

地域包括ケアシステム

高齢者が地域で安心して暮らすことのできる環境づくりに向けて、「地域包括ケアシステム」を構築していく方向性が出されています。地域包括ケア研究会の説明では、以下のような予想図となります。

団塊世代が75歳になる2025年には、日本の人口構成は逆ピラミッド型になり、まさに超高齢化社会となることが予想されている。世界に高く評価されてきた国民皆保険制度を現状の形で維持することは到底不可能であり、今後の皆保険制度を守るため異なった形をつくりあげていく必要があります。そこで、1中学校区をベースとして、その地域に医療、介護、福祉・生活支援、保健・予防を包括的に連続的に提供する仕組みをつくっていくことを基本的な考え方としています。

「医療」を担うのは、日常の診療を行う診療所や中小病院が想定されています。「介護」は介護保険給付サービスを指し、「福祉」は社会福祉、権利擁護、生活支援を、「保健・予防」は主に介護予防を意味しています。

地域包括システムにおける医療機関の役割として、①QOLの維持・向上に専門的な立場から関与する、②QOD(Quality of Death)への関与、③地域のベースキャンプ機能の3つが挙げられています。

①については、医師はじめ多職種が専門的な立場から関与する連携が重要であり、とりわけ在宅医療の充実・

強化がいられています。②については、終末期ケアの充実を主眼としたものです。住み慣れたところで尊厳ある死を迎えるために多職種連携だけでなく、医療機関同士の連携、歯科医師、調剤薬局との連携など専門性をもちよる連携が求められます。③については、中小病院に対する期待が高まっており、レスパイトケアや夜間対応など、診療所では支えきれないニーズが発生した際にいつでも引き受けるというものです。地域の一般病院や療養型病院が含まれます。2025年までにこのような体制づくりが間に合うかどうか心もとないところですが、方向性は示されたので、それに向けて、当法人においても再度役割を見直しつつ、地域に寄り添った医療・介護サービスを実践していくために、職員一同自己研鑽に努めたいと思います。



理事長 森 伊津子

● 今年、2月より当院の検査科にて“グラム染色検査”を導入しました

皆さんご存じのペニシリンは抗生物質の中でも代表格といえますが、全ての細菌を退治できるわけではありません。

細菌には数え切れないほど沢山の種類があり、その中には抗生物質を分解する菌や、薬剤が効きにくい菌も存在します。そのため病気の治療はその原因となった菌に対して効き目のある薬剤を適切に選択することが重要になります。

通常、細菌を区別しどの薬剤が効くのか調べるには、少なくとも数日かかります。そのため、緊急時には迅速な対応が難しい検査です。

今回検査科にて導入したグラム染色検査とは、喀痰や尿の中にいる細菌を特殊な色素で染め上げ顕微鏡で観察し、細菌を大まかに区別する検査です。結果がでるまでに1時間という迅速な対応が可能

になり、治療初期の抗生物質の選択に大きな役割を果たせるようになりました。

今後も良質な医療を提供し続けられるように、様々なことに取り組んでまいります。

臨床検査科



「魅力ある医療現場に向けた研修会」にて事例発表

看護部長 備酒 一二美



平成24年3月12日 高松サンポート合同庁舎アイホールにて

昨年6月に閣議決定された新成長戦略では、医療・介護・健康関連産業は、日本の成長牽引産業として位置づけられ、質の高い医療・介護サービスを安定的に提供できる体制を整備することとしています。

それを受け、香川労働局では香川県との共催により、本研修会を実施するに当たり、県内の医療機関における取り組み事例の紹介として、次世代認定マーク「くるみん」を2度取得している当院が選ばれました。「働きながら子育てしやすい職場環境づくり」と題して過去の取り組みの事例を発表しました。

発表内容

- 平成6年より院内託児所を開設し、夜間保育にも対応している。
- 平成8年育児休業法ができた直後より、現在に至るまで育児休業取得率は100%である。
- 平成17年次世代育成支援対策推進法制定後、さらに年休取得率向上、職場復帰プログラム、両立支援ガイドブック作成、男性の育児休業取得等、仕事と家庭の両立支援の風土作りを強化した。
- ワークライフバランス重視の職場は、助け合い、支え合うコミュニティである。「お互い様…」の思いやりの風土を強くしていきたい。

両立支援推進委員会



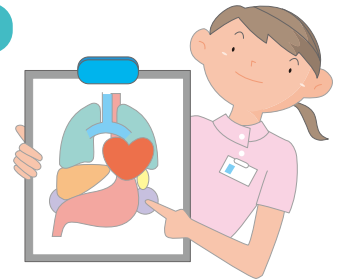
健康ひろば

第16回
テーマ

「腎臓の働きについて」

■腎臓の働きについて

腎臓は、心臓から送り出された血液をろ過して、体内の老廃物を尿として排泄する役割があるというのはよく知られていますが、腎臓の働きはそれだけでなく、体の水分量や血圧の調節、ナトリウムやカリウム、カルシウム、リンなどのミネラルの調節や、酸性・アルカリ性の調節、血液を作るホルモンの分泌など様々な働きをしています。腎不全が進行し、これらの機能が低下すると、浮腫や全身倦怠感、食欲不振、高血圧、不整脈、貧血などの症状が出てきます。



■慢性腎臓病 (CKD) について

慢性腎臓病とは、腎臓の機能が健康な人の60%以下、または蛋白尿などの異常が続く状態を言います。腎不全は、初期にはほとんど自覚症状がなく、むくみや息切れ、倦怠感などの症状が出てきた時には、かなり病気が進行している可能性があります。慢性腎臓病の進行を予防するためには、早期に発見し治療することが重要ですが、そのためには定期的に尿検査や血液検査を行い、現在の腎機能を知ることが大切になります。

■予防と治療について

慢性腎臓病の発症には、高血圧、糖尿病、肥満、運動不足、飲酒、喫煙、ストレス、加齢などが関わっていると言われています。病気の進行を予防し、腎機能を悪化させないためには、まず生活習慣を改善することが重要です。食べすぎ、塩分の摂りすぎに注意し、禁煙に努め、規則正しい生活を送るようにしましょう。薬物療法については、残念ながら腎不全を完治させる薬はなく、一度、機能が低下した腎臓は元に戻ることはありませんが、腎不全の進行をある程度、抑えることはできます。

内科 中山和典

● 第6回まんのう健康・福祉まつり

平成24年3月20日(火)に開催された「第6回まんのう健康・福祉まつり」に通所介護いこいの家と通所介護げんきの郷が合同で参加しました。リハビリ体操や口腔体操を行ったミニミニデイ体験には、たくさんの方々に参加していただきました。



● 平成23年度ひまわり託児所修了式



平成24年3月22日(木)、21名の子供たちの終始賑やかな声の中で、ひまわり託児所の修了式(18期生)が行われ、4名の子供たちが巣立っていきました。

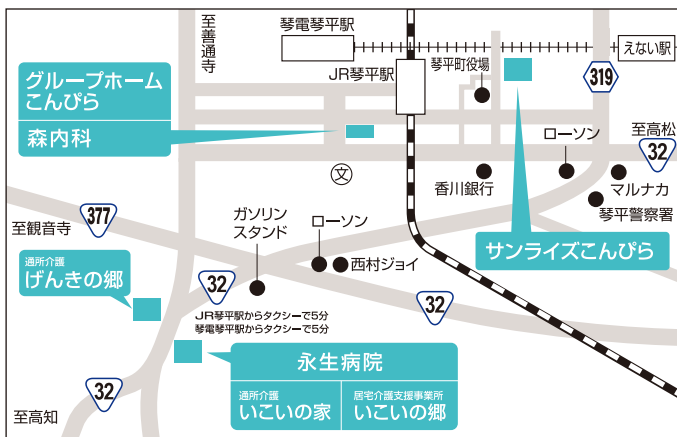
● 新採用者オリエンテーション



4月から圭良会の一員となりました。8日間の研修で各部署での業務を体験し、多くのことを学びました。これからは配属部署にてがんばりますのでよろしくお願い致します。

【編集後記】

今年度は、医療保険・介護保険の同時改定の年であり、医療・介護サービスの『連携』を強化した内容となっています。当院が以前より取り組んでいる『医療・介護の融合』の重要性が認められた改正となりました。当院にも新採用者が仲間入りし、新しい風を吹き込んでくれています。先輩職員は、新人教育に当たるとともに、マニュアルを見直し、初心をもう一度思い出し、業務をより一層充実したものにしていきたいと思ひます。



医療法人圭良会

- 永生病院 香川県仲多度郡まんのう町買田221-3
Tel 0877-73-3300
- いこいの家 (通所介護) Tel 0877-73-3718
- いこいの郷 (居宅介護支援事業所) Tel 0877-73-3655
- げんきの郷 (通所介護) 仲多度郡まんのう町買田102-1
Tel 0877-58-8811
- 森内科 香川県仲多度郡琴平町167
Tel 0877-73-4188
- グループホームこんぴら (認知症高齢者グループホーム) Tel 0877-73-0811
- サンライズこんぴら (小規模多機能型居宅介護) 香川県仲多度郡琴平町榎井字池田451番地1
Tel 0877-58-8600

永生病院 130床(一般病棟 40床・療養型病棟 90床)

永生病院広報誌「ゆるぬき」第27号
発行元：医療法人圭良会 永生病院
編集者：医療サービス改善委員会
住所：〒769-0311 仲多度郡まんのう町買田221-3
TEL:0877-73-3300
FAX:0877-73-3202
永生病院のホームページ <http://www.eisei-hp.or.jp/>
eメールでのお問い合わせは keiryokai@eisei-hp.or.jp
発行年月日:平成24年4月23日